

第10章 第二部, 短期大学部および通信教育部学生の実態

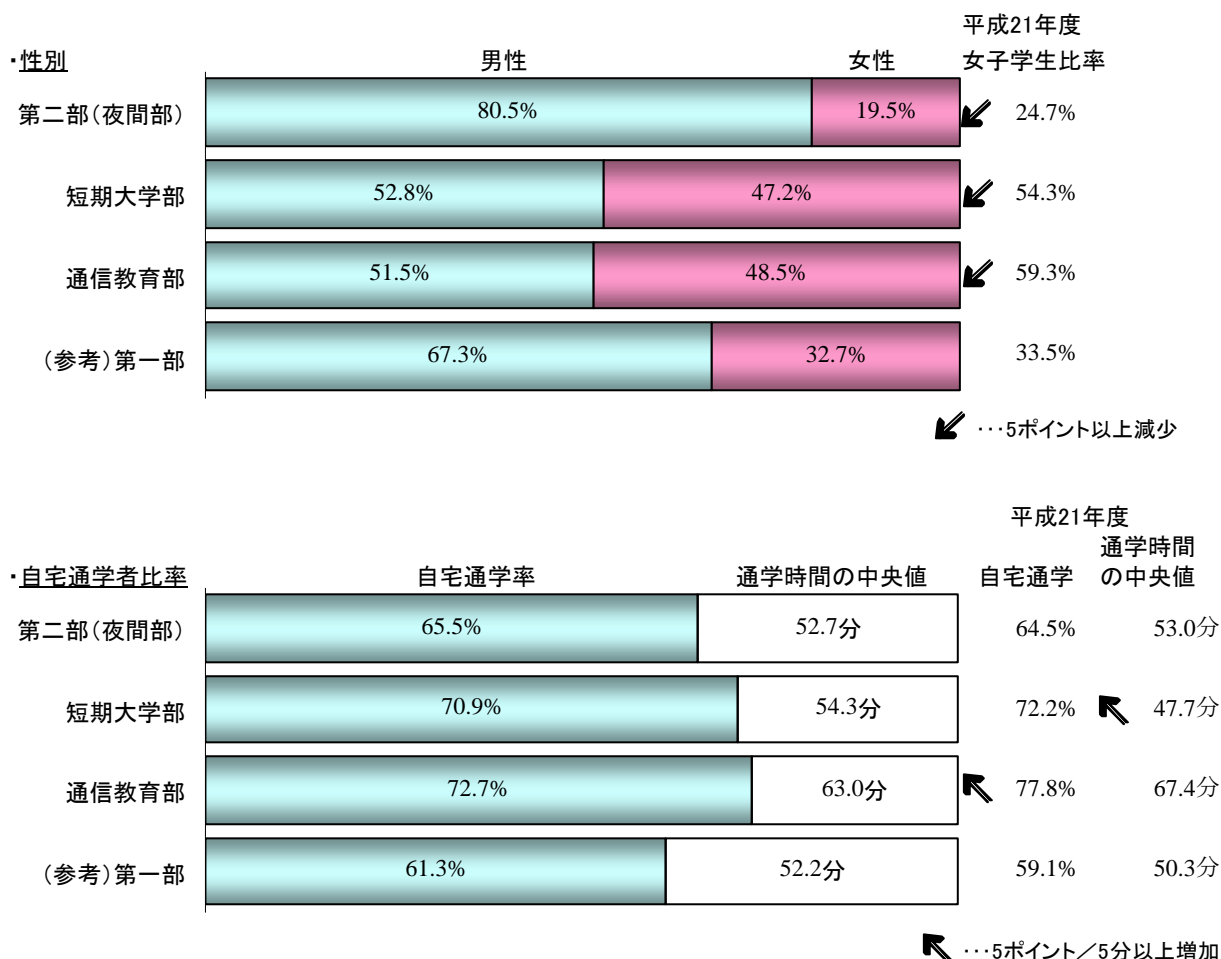
1. 学生の特性

第二部(夜間部)は男子学生が8割, 短期大学部と通信教育部は男子学生が半数強。第一部の学生より自宅居住者の比率が高い傾向。通学時間は短期大学部で増加。

第二部(夜間部)は法学部・経済学部(千代田区三崎町キャンパス), 短期大学部は商経学科・食物栄養学科(三島キャンパス), 建設・生活デザイン学科・ものづくり・サイエンス総合学科・生命・物質化学科(船橋キャンパス), 生物資源学科(湘南キャンパス), 通信教育部は昼間スクーリングの各学生が調査対象となっています。

学生の男子学生比率を見ると, 第二部(夜間部)が80.5%を占めており, 短期大学部と通信教育部は50%強となっています。第一部(昼間部)と比較すると, 第二部(夜間部)は男子学生比率が高く, 短期大学部と通信教育部は女子学生比率が高くなっています。3年前(平成21年度)と比較すると女子学生の比率が減少する傾向が見られます。

自宅通学者は, 第二部(夜間部)は65.5%, 短期大学部は70.9%, 通信教育部は72.7%となっており, 第一部の学生より自宅通学者の比率が高くなっています。通学時間の中央値を見ると, 第二部(夜間部)で52.7分と第一部の学生とほぼ同じとなっています。通信教育部の昼間スクーリング受講生は遠方からの通学者が多いようであり, 63.0分となっています。平成21年度と比較すると, 通学時間は短期大学部で6.6分長くなっています。



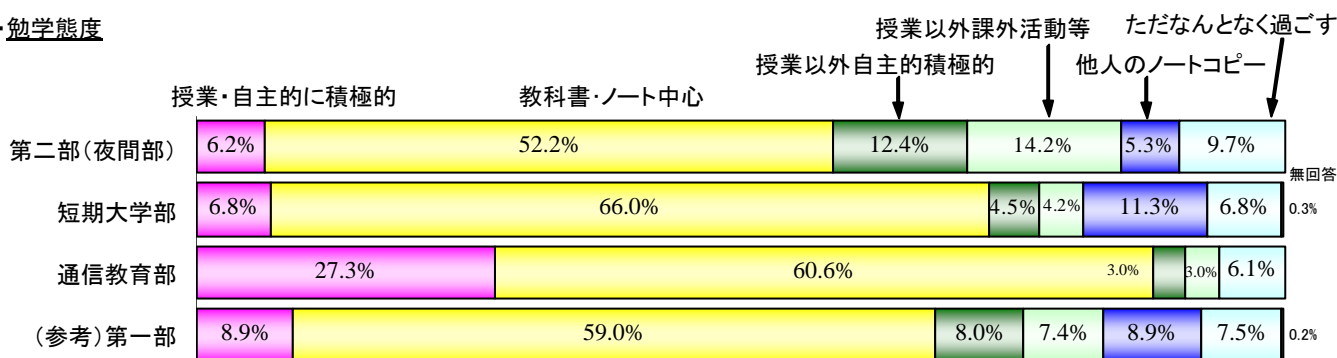
2. 勉学態度

『比較的まじめな勉学態度の学生』の比率は短期大学部と通信教育部で第一部を上回る。
 第二部（夜間部）では『比較的まじめな勉学態度の学生』がこの3年間で激減。

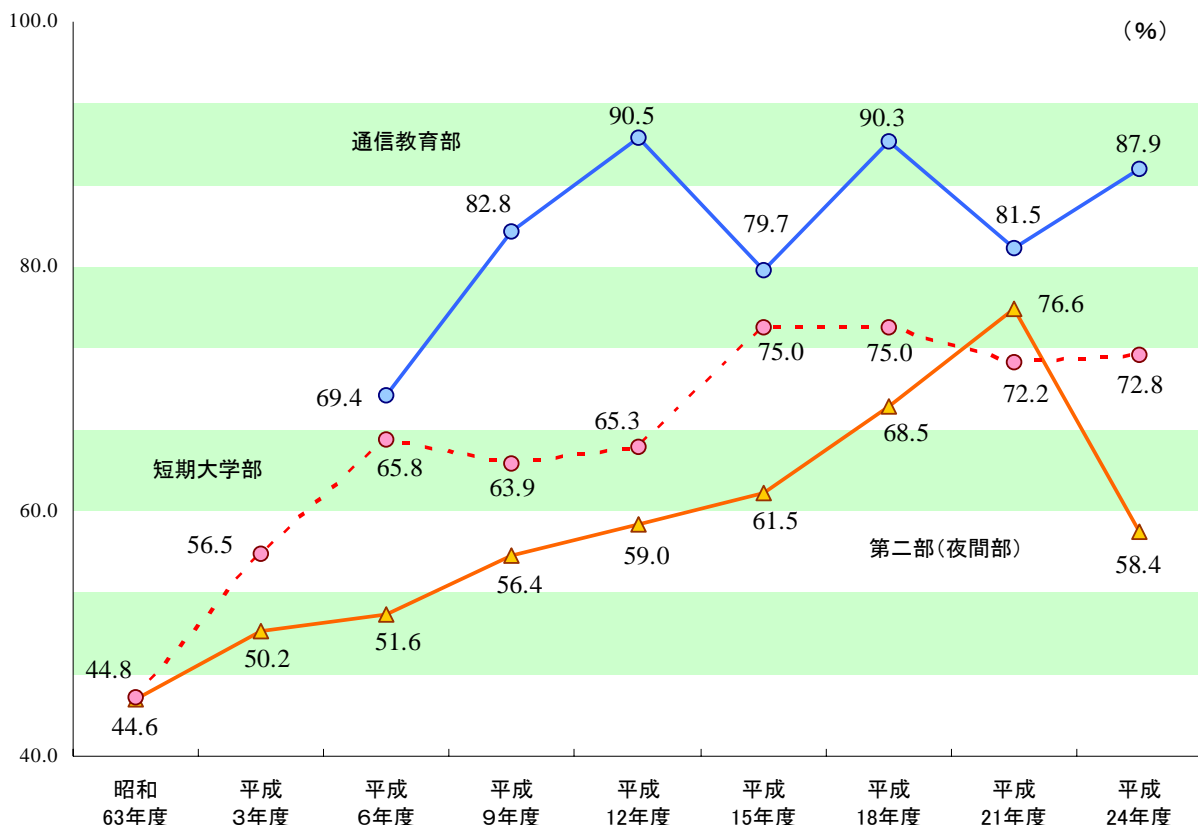
勉学態度を見ると、「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」している学生が短期大学部で66.0%、通信教育部で60.6%と第一部の学生と比較して高くなっています。第二部（夜間部）では、授業以外の課外活動等にとりくんでいる学生の比率が高いといった特徴が見られます。「授業や自主的テーマで積極的に勉学」と「教科書・ノート中心」を合計した『比較的まじめな勉学態度の学生』は短期大学部で72.8%、通信教育部で87.9%と第一部を上回っています。

『比較的まじめな勉学態度の学生』の比率の経年変化を見ると、第二部（夜間部）では昭和63年度から21年間で32.0ポイント増加しましたが、平成24年度は58.4%と3年前より18.2ポイント減少しています。経済学科が平成21年度で募集停止になり、学生の構成が変化していることが一因かもしれません。短期大学部では平成15年度まで増加していましたが近年は横這い、通信教育部は平成9年度以来、約80%から90%の間を上下しています。

・勉学態度



・比較的まじめな勉学態度の経年変化



(注) 「授業や自主的で積極的な勉学」と「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」の%の合計

3.授業態度(熱心さ)

第二部(夜間部)では総合教育, 短期大学部では保健・体育, 通信教育部では専門(必修)科目に熱心な学生の比率が最も高い。
3年前と比較して, 第二部(夜間部)と短期大学部で専門科目に熱心な学生が減少傾向。

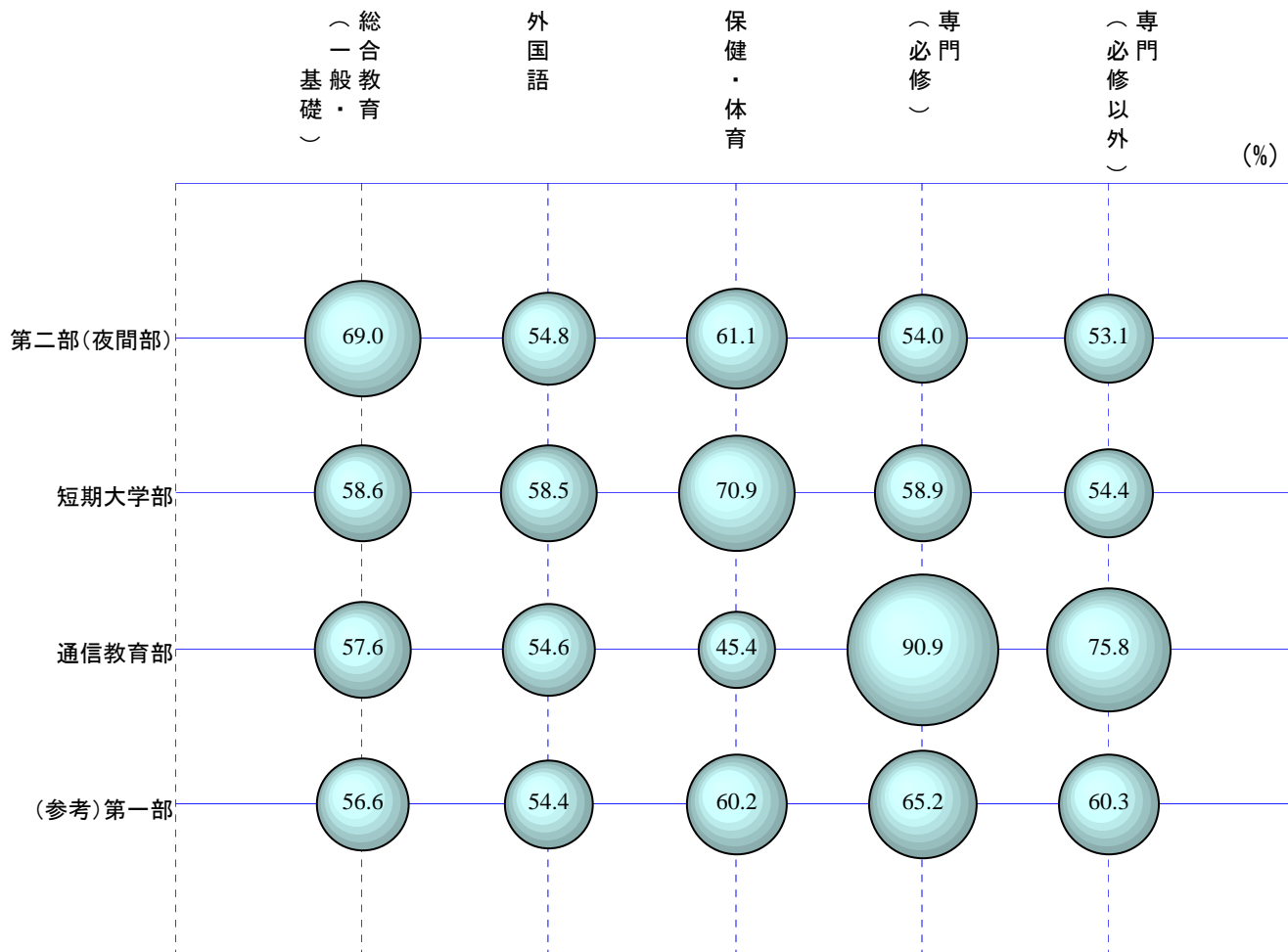
授業態度について「熱心」と「まあまあ熱心」を加えた比率を見ると, 第二部(夜間部)では総合教育が69.0%で最も高く, 保健・体育が61.1%で続いています。

短期大学部では保健・体育が70.9%と高く, その他の4科目については60%弱となっています。

通信教育部では専門(必修)が90.9%と非常に高く, 専門(必修以外)が75.8%で続いており, 専門科目に熱心な学生が多い傾向が顕著に表れています。

第一部の学生と比較すると, 第二部(夜間部)は総合教育, 短期大学部は保健・体育, 通信教育部は専門(必修・必修以外にも)に熱心な学生の比率が高い点が目立っています。

3年前と比較すると, 第二部(夜間部)と短期大学部で専門科目に熱心な学生の比率が約10ポイント以上減少しています。



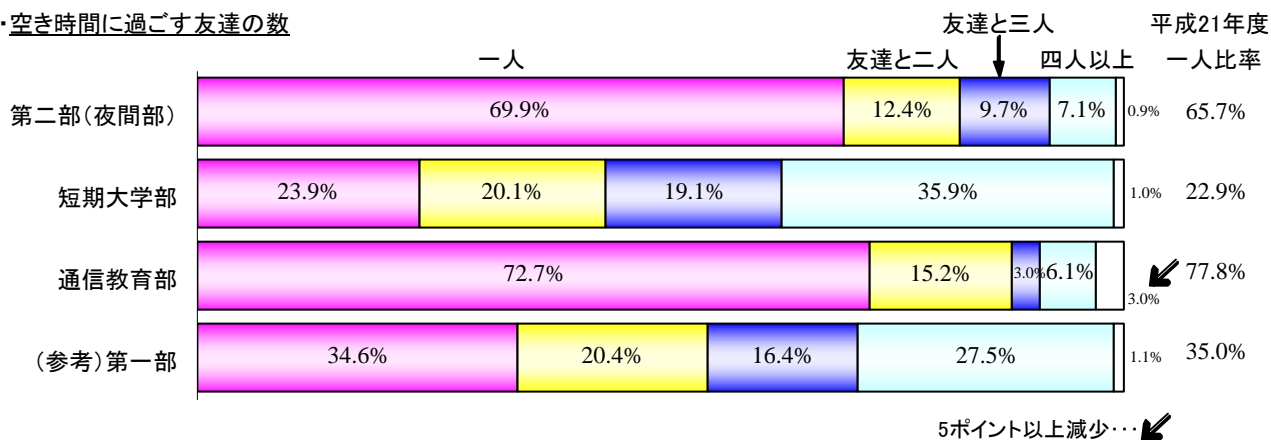
4.空き時間の過ごし方

第二部(夜間部)と通信教育部は空き時間に「一人」で過ごす学生が多い。短期大学部では大勢の友達と過ごす傾向が第一部より強い。過ごす場所は図書館がトップ。

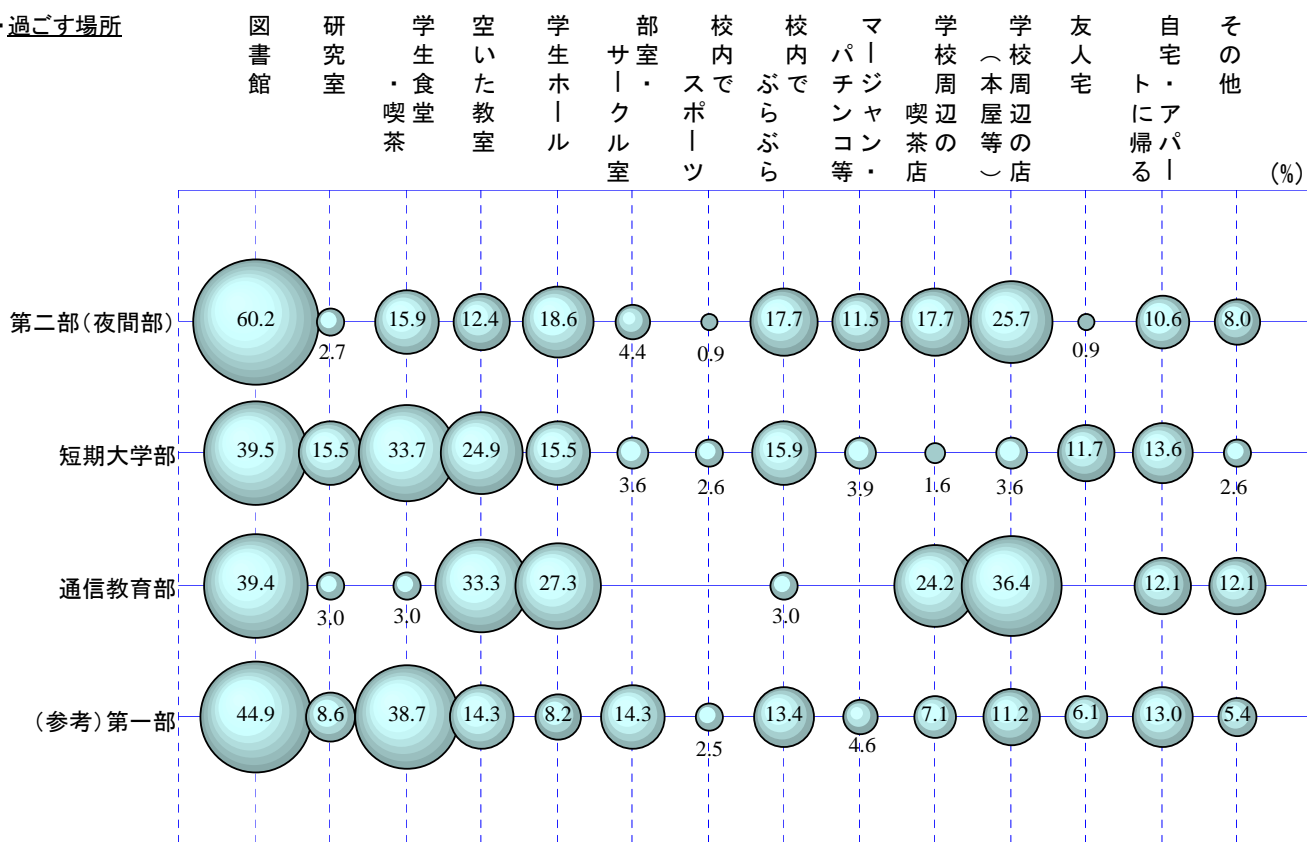
学内で空き時間ができた時に「一人」で過ごす学生の比率を見ると、男子学生が8割を占める第二部(夜間部)で69.9% (平成21年比4.2ポイント増)、通信教育部で72.7%と高い点が目立っています。短期大学部では、「一人」は23.9%にとどまっております、友達と「三人」が19.1%、「四人以上」が35.9%と、第一部と比べても比較的大勢の友達と過ごす学生の比率が高いことがわかります。

空き時間に過ごす場所を見ると、第二部(夜間部)・短期大学部・通信教育部とも「図書館」がトップですが、比較的大勢で過ごす学生が多い傾向がある短期大学部では「学生食堂・喫茶」(33.7%)、「一人」で過ごす学生が多い第二部(夜間部)と通信教育部では「学校周辺の店(本屋等)」が2番目に高くなっています。

・空き時間に過ごす友達の数



・過ごす場所



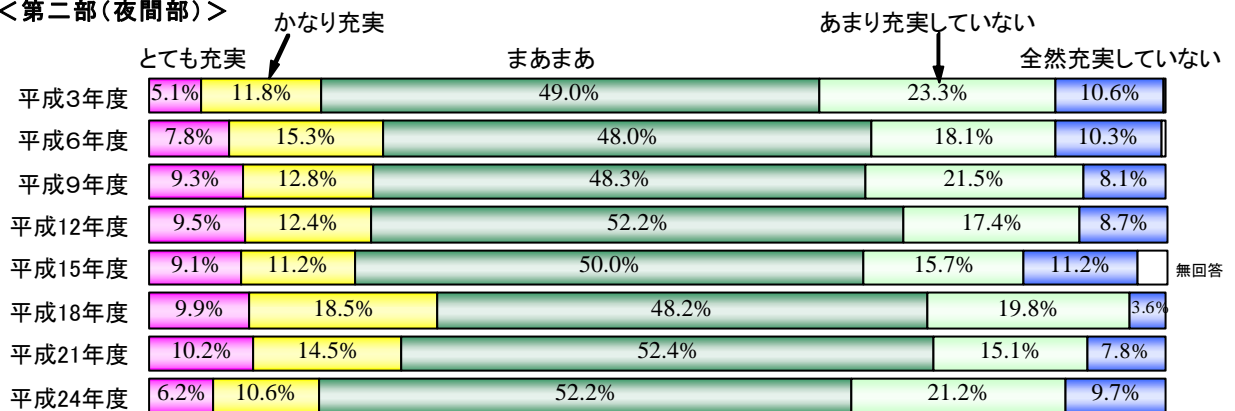
5. 学生生活充実感の経年変化

学生生活が充実している学生の比率は短期大学部と通信教育部で調査開始以来最高、第二部（夜間部）は6年前から減少傾向。

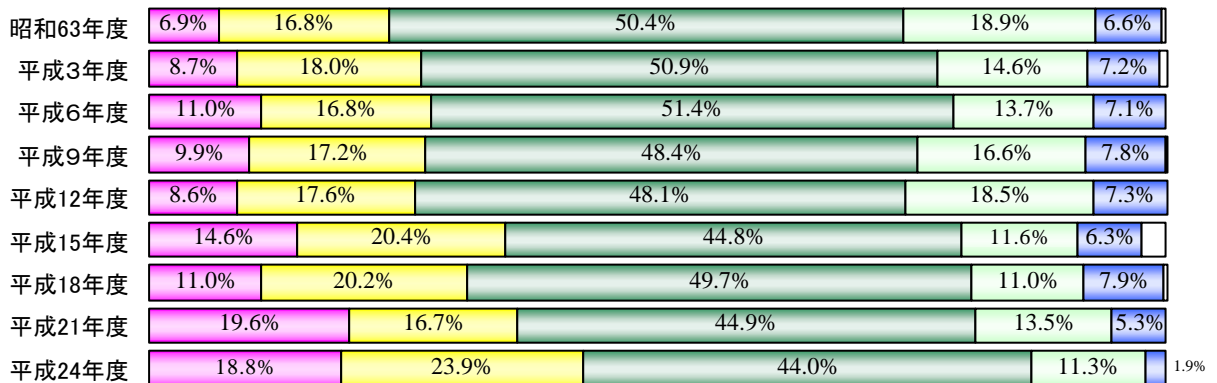
学生生活の充実感についての経年変化を見ると、第二部（夜間部）では6年前の平成18年度から充実した学生の比率が減少傾向にあります（「とても充実」と「かなり充実」の比率の合計が平成24年度は16.8%で平成18年度比11.6ポイント減）。

短期大学部を見ると、「充実」している学生の比率は概ね増加傾向にあり、平成24年度は42.7%と6年前より11.5ポイント増加し昭和63年度以来最高となっています。通信教育部でもこの3年間で11.5ポイント増の48.5%となり平成6年度以来最高でした。

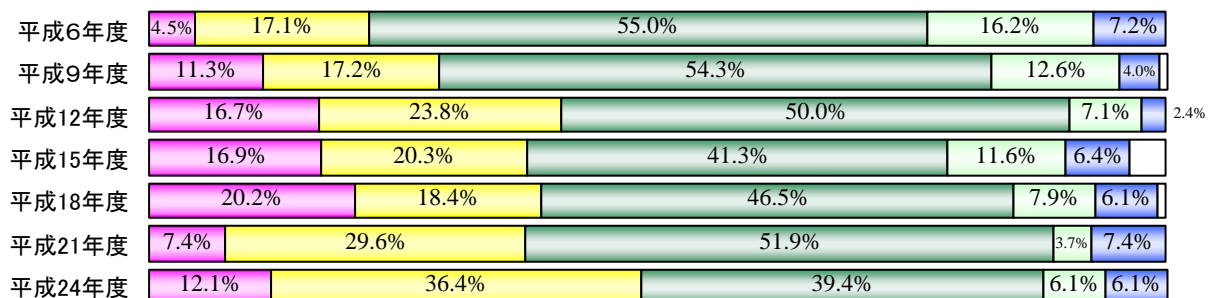
< 第二部（夜間部） >



< 短期大学部 >



< 通信教育部 >

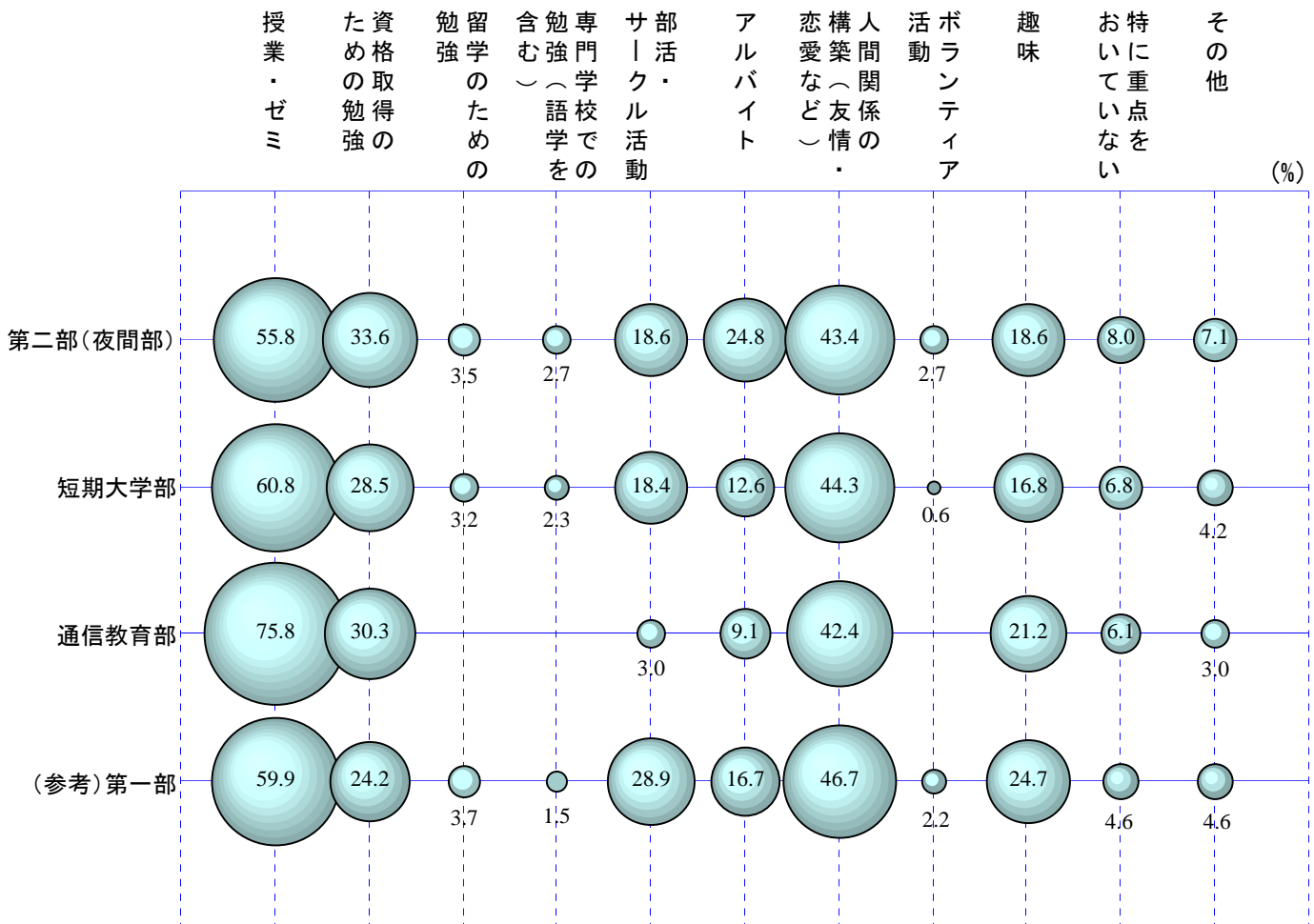


6. 学生生活で重要視すること

学生生活では、「授業・ゼミ」を重視する学生の比率が最も高い。
第一部に比べ、「資格取得のための勉強」を重要視する傾向がやや強い。

学生生活で重要視することを見ると、第二部(夜間部)・短期大学部・通信教育部とも「授業・ゼミ」がトップ、「人間関係の構築(友情・恋愛など)」「資格取得のための勉強」が続いています。

第一部と比較すると、「資格取得のための勉強」の比率が、第二部(夜間部)・短期大学部・通信教育部とも上回っています。3年前と比較すると、第二部(夜間部)では「人間関係」、短期大学部では「授業・ゼミ」が約5ポイント増加しています。通信教育部では「人間関係の構築」と「授業・ゼミ」が増加、「資格取得のための勉強」が減少しています。



7.授業および対応サービスについての満足層の比率

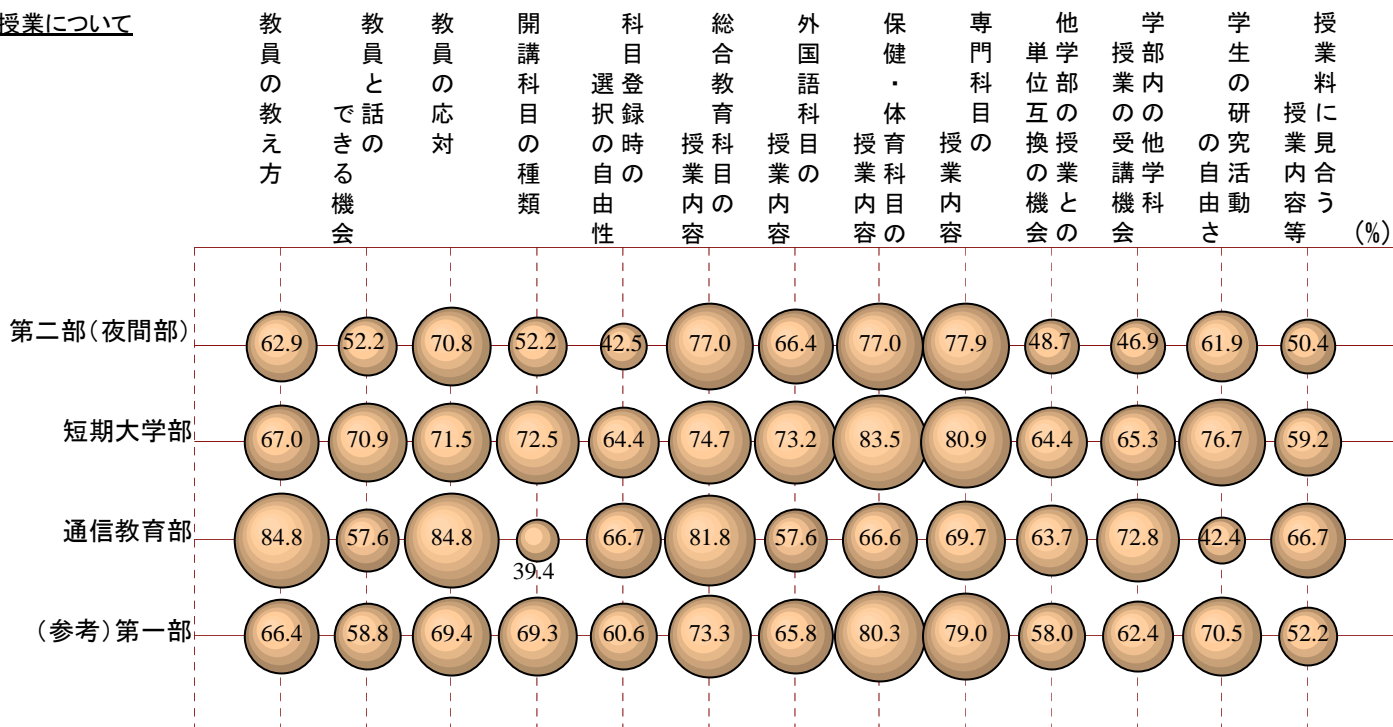
第二部(夜間部)・短期大学部は「授業」, 通信教育部は「教え方・応対」の満足度が高い。

第一部と比較すると, 「科目登録時の選択の自由性」「編入転入の機会」などで差。

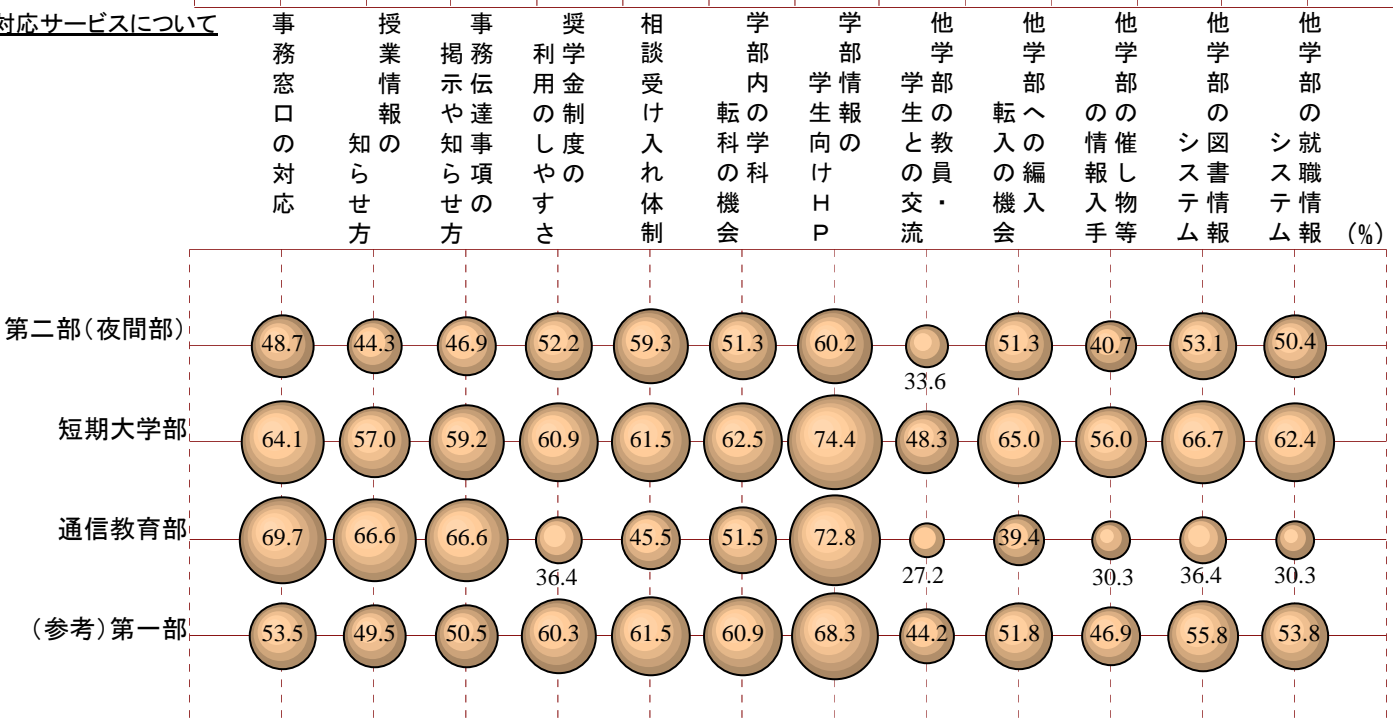
満足層(とても満足+どちらかといえば満足)の比率を見ると, 第二部(夜間部)では専門科目・総合教育科目・保健・体育科目の各授業が80%弱と高く, 通信教育部で「教員の教え方」「教員の応対」「総合教育科目の授業」, 短期大学部で「保健・体育科目の授業」「専門科目の授業」が80%を超え, それぞれ満足度の高さが目立っています。

第一部と比較すると, 第二部(夜間部)で「科目登録時の選択の自由性」「開講科目の種類」が約20ポイント低く, 短期大学部で「教員と話のできる機会」「他学部への編入転入の機会」が約12ポイント高く, 通信教育部は「教員の教え方」「事務窓口の対応」などで約16ポイント以上高い点が目立ちます。

・授業について



・対応サービスについて

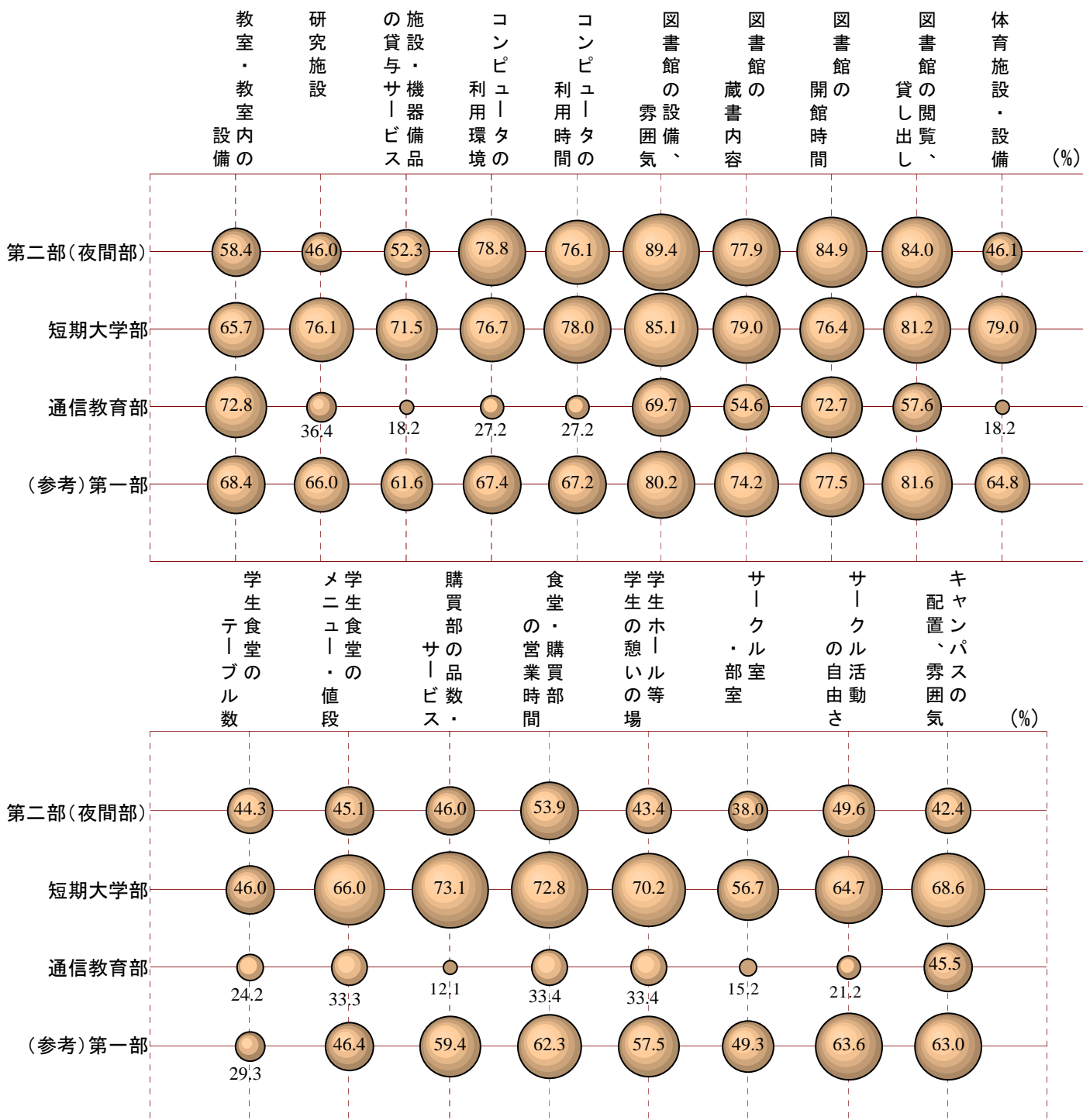


8. 施設についての満足層の比率

第二部(夜間部)と短期大学部は図書館の満足度が第一部同様高い。
第一部と比較して、短期大学部では食堂・購買部・学生の憩いの場の評価の高さが目立つ。

施設についての満足層の比率を見ると、法学部・経済学部の第二部(夜間部)と国際関係・理工・生物資源科の3学部内にキャンパスがある短期大学部はともに、「図書館の設備・雰囲気」など図書館に関する項目が8割から9割となっており、図書館の満足度の高さが目立っています。

第一部と比較すると、第二部(夜間部)で「学生食堂のテーブル数」や「コンピュータの利用環境」が10ポイント以上高く、短期大学部では学生食堂・購買部や体育施設・学生の憩いの場に対する満足度が15ポイント前後高い点が目立ちます。昼間スクーリングに参加している通信教育部生は「教室・教室内の設備」以外の評価は全般的に低めになっています。



9.授業外活動

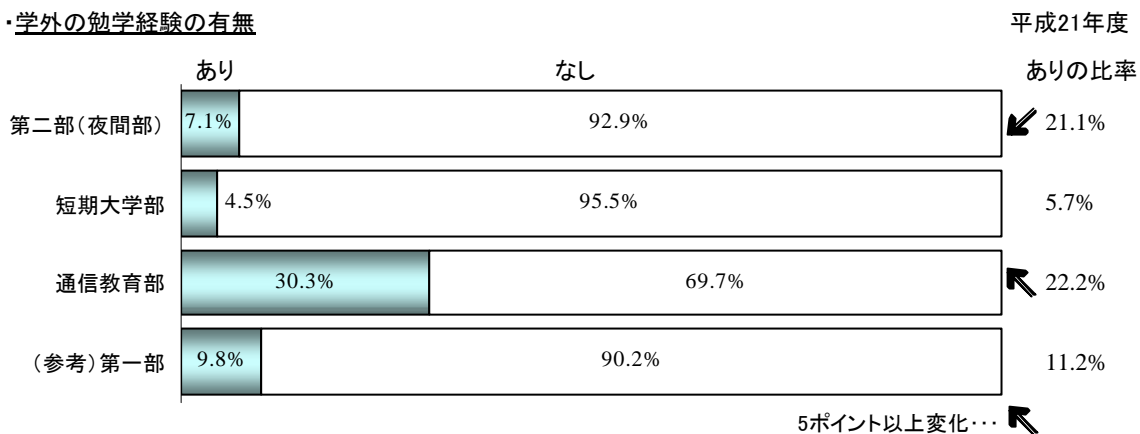
学外の勉学経験は通信教育部で30%と高く、第二部（夜間部）では3年前より減少。クラブ・サークルへの参加率は、第二部（夜間部）・短期大学部・通信教育部とも第一部よりかなり低い。学生主体行事への参加経験は、第二部（夜間部）で増加が目立つ。

知識・技術や資格取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）などに通った経験を見ると、第一部（9.8%）に比べ通信教育部では30.3%と非常に高く、短期大学部では4.5%と第一部の1・2年生（6.7%）より低め、第二部（夜間部）では7.1%と3年前より14.0ポイント減となっています。

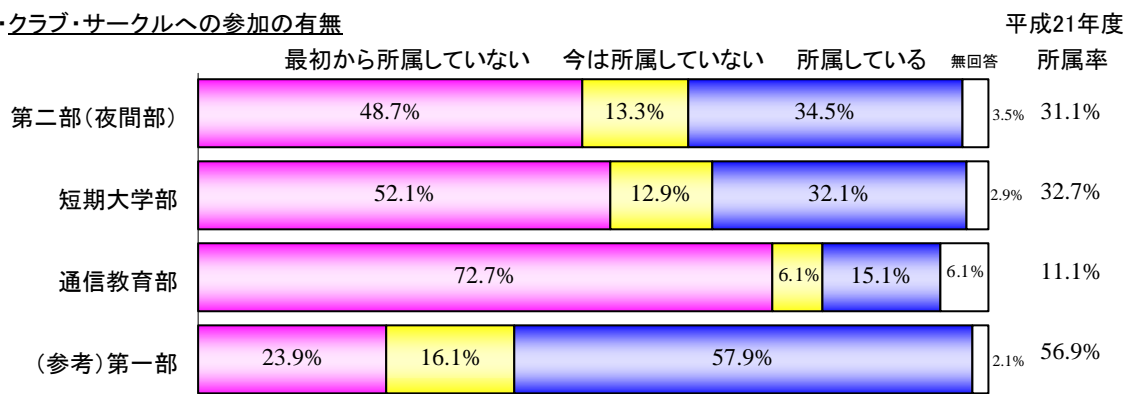
クラブ・サークルの所属率は、第二部（夜間部）で34.5%、短期大学部で32.1%、通信教育部で15.1%と、第一部（57.9%）を大きく下回っています。

学生主体行事への参加経験は、第二部（夜間部）で24.8%、短期大学部で37.2%と第一部に比べ低くなっていますが、第二部（夜間部）では平成21年度より8.5ポイント増加しています。

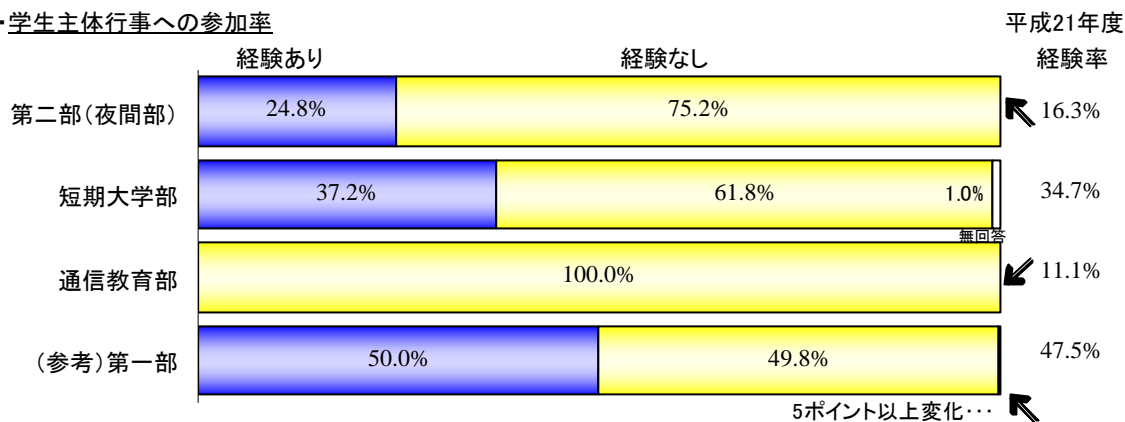
・学外の勉学経験の有無



・クラブ・サークルへの参加の有無



・学生主体行事への参加率

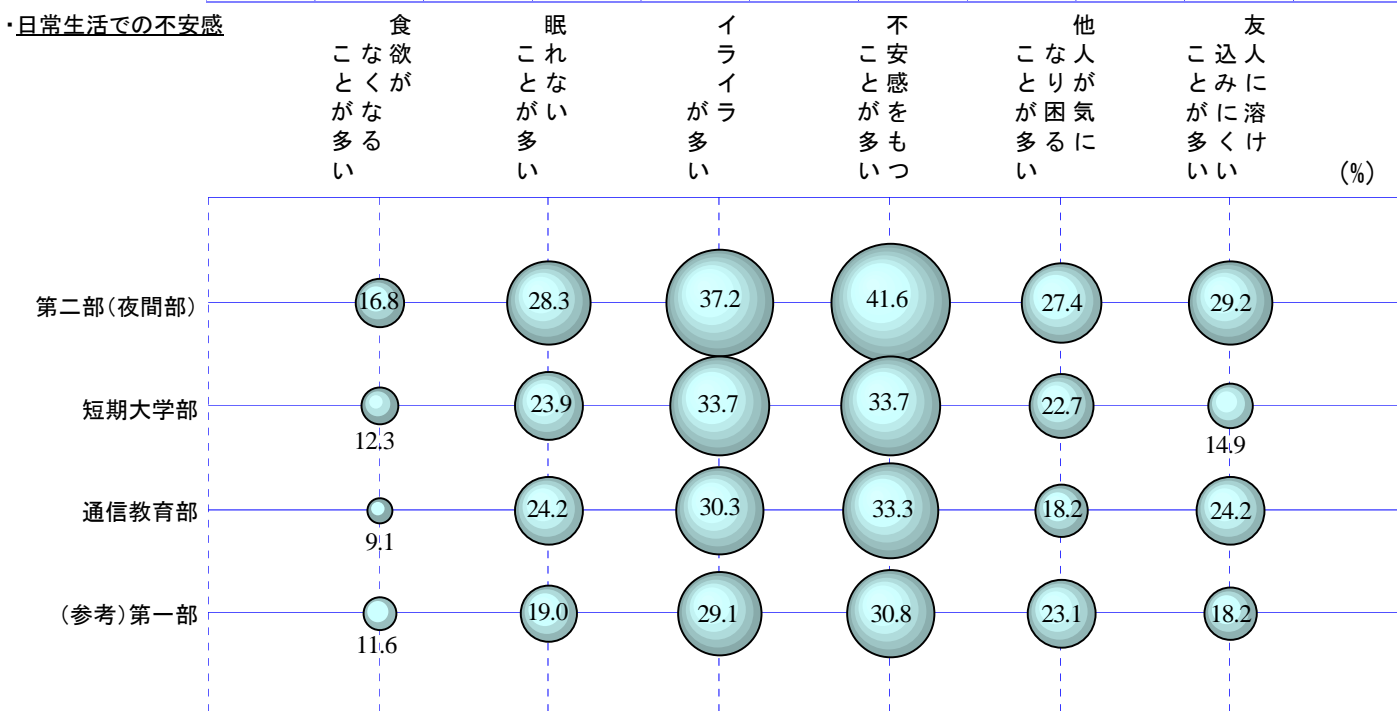
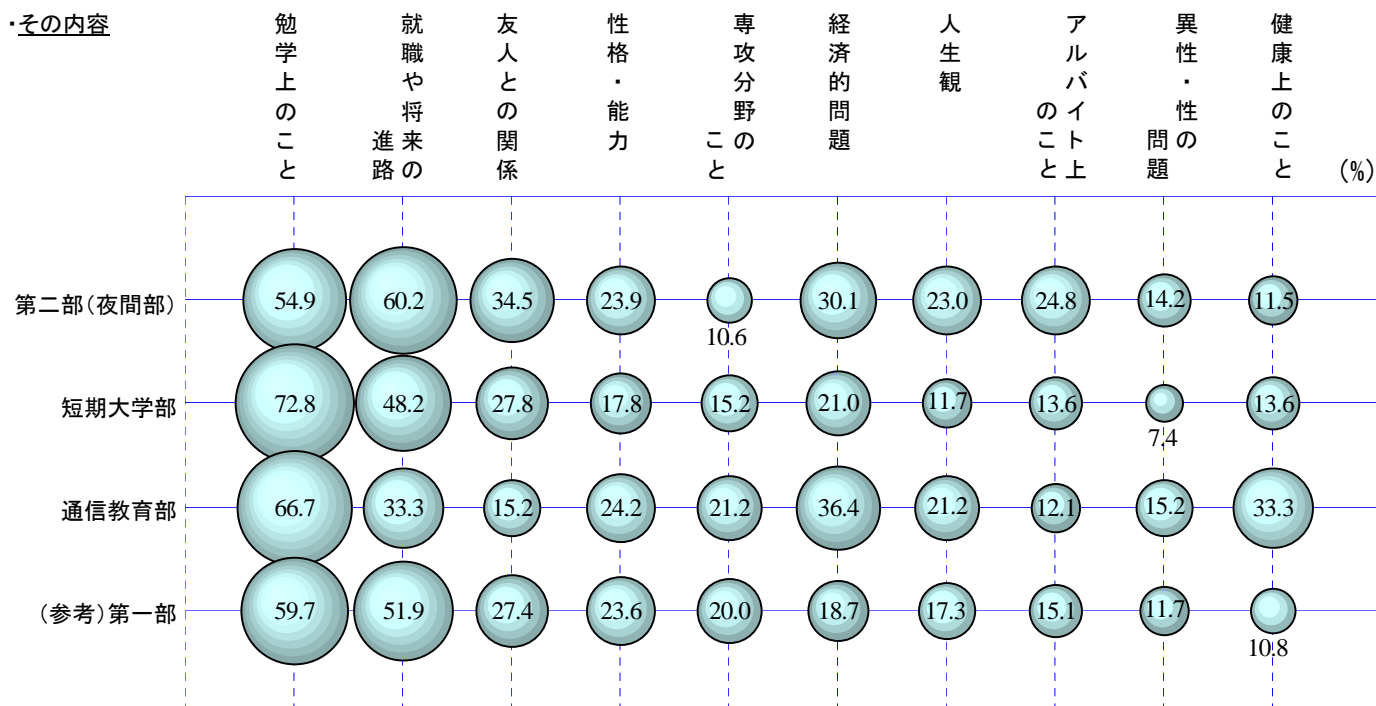


10.不安・悩み・トラブル

第二部(夜間部)では「進路」，短期大学部・通信教育部では「勉学」が最大の不安・悩み。「不安感」と「イライラ」は，第二部(夜間部)・短期大学部・通信教育部の順で高い。

在学中に経験した不安・悩み・トラブルなどを見ると，第二部(夜間部)では「就職や将来の進路」が最も高く，「勉学上のこと」が続いています。短期大学部・通信教育部ではともに「勉学上のこと」が最も高く，前者は「就職や将来の進路」，後者は「家計・学費・借金などの経済問題」が続いています。第一部と比較すると短期大学部で「勉学上のこと」が13.1ポイント，通信教育部で「家計・学費・借金などの経済問題」「健康上のこと」が20ポイント前後高い点が目立っています。

日常生活での不安感を見ると，「不安感を持つことが多い」と「イライラが多い」学生の比率は第二部(夜間部)・短期大学部・通信教育部の順に高く，第一部の学生と比較しても高めです。



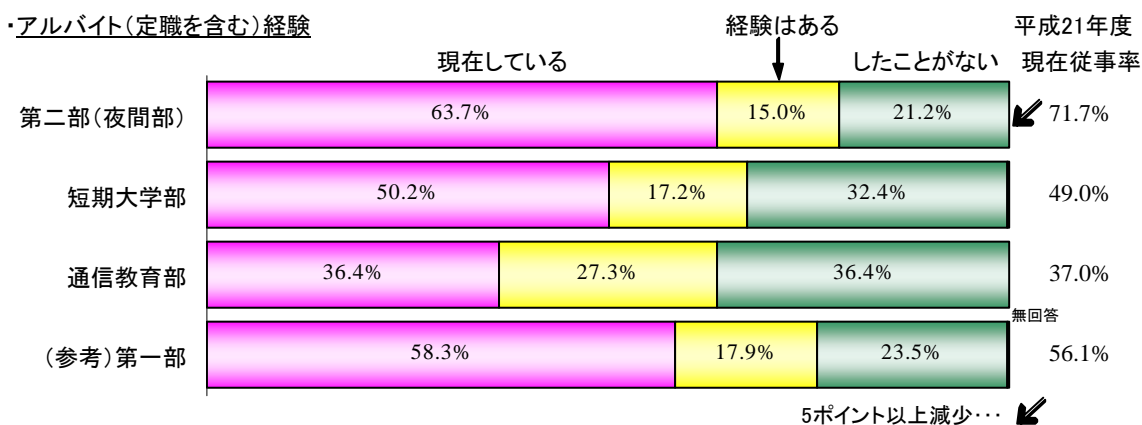
11.アルバイト(定職を含む)経験の有無

アルバイトを現在している学生は、第二部(夜間部)で60%強、3年前より減少。
就業状況を通して、学生の立場や経済状況の差が垣間見られる。

アルバイト(定職を含む)の経験を見ると、「現在している」学生は、第二部(夜間部)で63.7%、短期大学部で50.2%、通信教育部で36.4%となっています。平成19年度から学科の構成が変化した第二部(夜間部)では、「現在している」学生が3年前より8.0ポイントの減少しています。

「現在している」学生の比率を第一部と比較すると、は第二部(夜間部)は5.4ポイント高く、短期大学部は8.1ポイント低く、通信教育部は21.9ポイント低くなっており、学生の置かれている状況の違いが表れています。

短期大学部と第二部(夜間部)ではアルバイトをしている学生の80%強が「長期アルバイト(6か月以上)」で、第一部の学生より若干低めとなっています。「定職」をもっている学生は、第二部(夜間部)全体で5.3%、通信教育部全体で15.1%となっており、第一部の学生(同1.1%)と異なる状況がうかがえます。



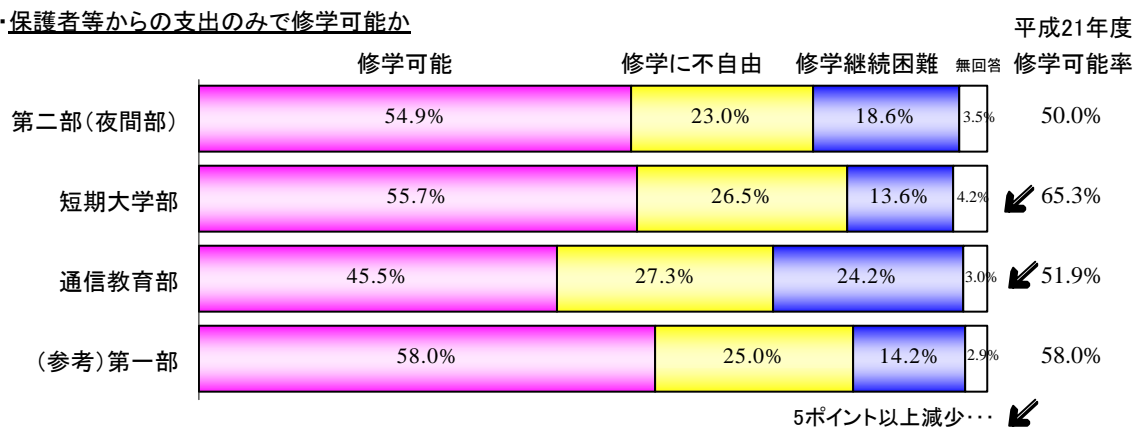
12.保護者等からの支出のみで修学可能か

通信教育部の学生は、修学上の経済的問題を抱えている学生の比率が高い。短期大学部でも、保護者からの支出のみで修学可能な学生はこの3年間で減少。

保護者などからの支出で「修学可能」な学生の比率は、第二部（夜間部）で54.9%・短期大学部で55.7%と第一部（58.0%）より若干低くなっています。通信教育部で45.5%と半数を下回っています。平成21年度と比較すると、「修学可能」は第二部（夜間部）では4.9ポイント増加していますが、短期大学部（9.6ポイント減）と通信教育部（6.4ポイント減）では保護者等からの支出が減少していることがうかがえます。

「現在の状態は、奨学金を申請する必要がない」と回答した学生は、第二部（夜間部）と短期大学部では40%強であるのに対し、通信教育学部では60%弱と高くなっています。また、通信教育学部では「奨学金の給付を受けたい」学生が30.3%でありながら（第一部では15.2%）、「奨学金の給付を受けている」「給付を受けたことがある」はともに3.0%と少数であり、奨学金給付を希望しながらも受給できていない状況が見られます。

・保護者等からの支出のみで修学可能か



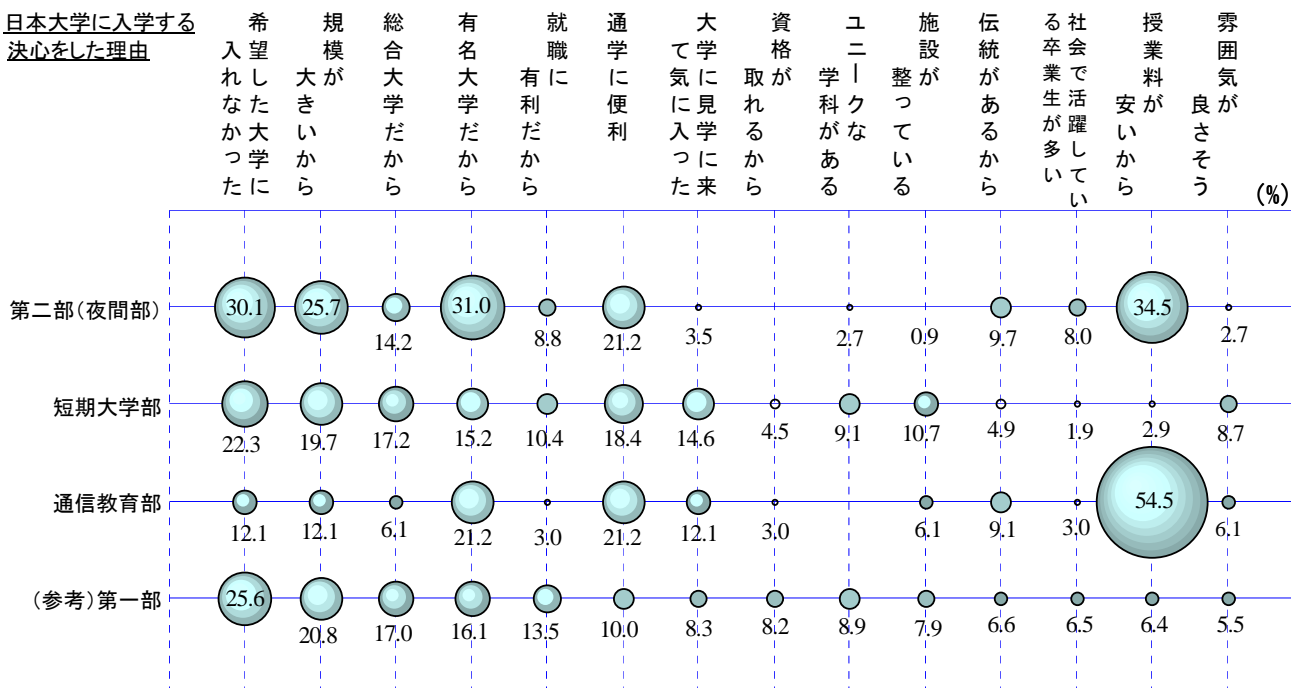
13. 日本大学に入学する決心をした理由と入学直後の意識

入学理由について、第二部（夜間部）と通信教育部は「授業料が安いから」が目立つ。今の学部や日大に入学して満足している学生が大半を占め、不本意入学が減少傾向。

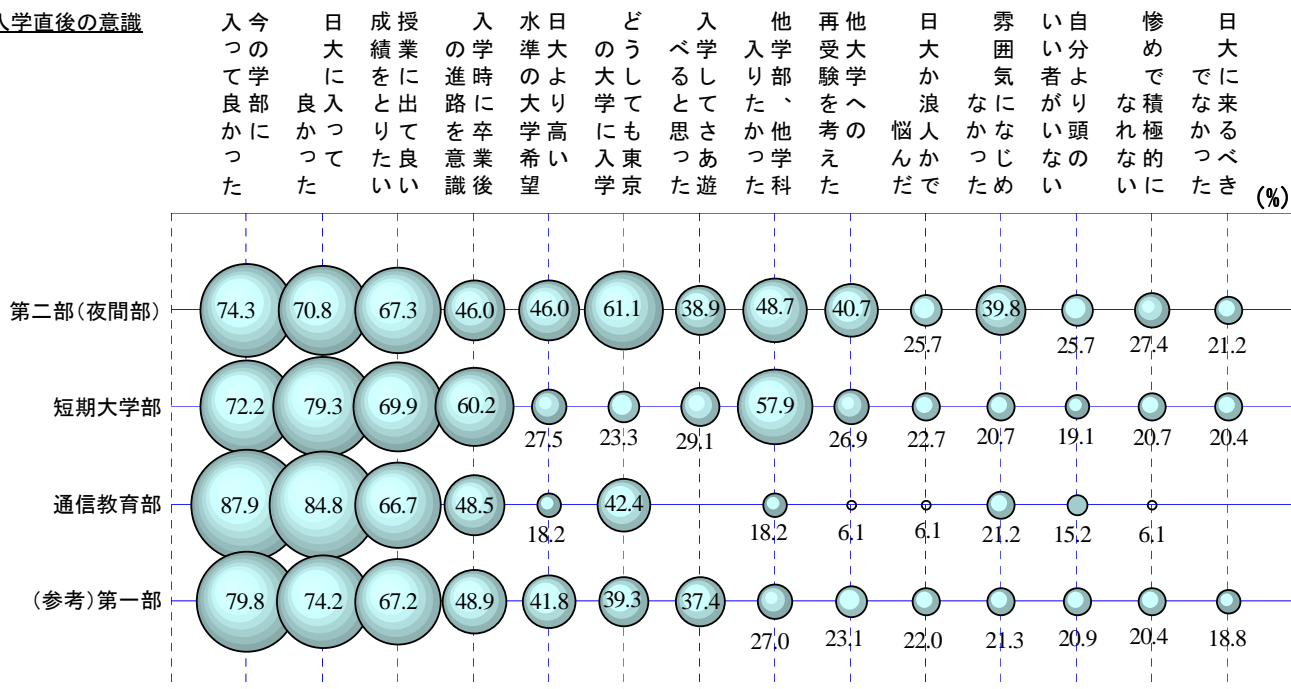
日大に入学を決心した理由を第一部での高い順(出現率5%以上)に並べたものが上段の図です。第二部(夜間部)と通信教育部では経済事情を反映してか、「授業料が安いから」がトップでした。第二部(夜間部)では「有名大学だから」と「希望した大学に入れなかった」も約30%で続いています。短期大学部は「希望した大学に入れなかった」がトップですが、22.3%と比較的低くなっています。

入学直後の意識を第一部での高い順に並べたものが下段の図です。第二部(夜間部)・短期大学部・通信教育部とも、今の学部や日大に入って良かったという意識が最も高くなっています。平成21年度と比較すると、3グループとも「他大学への再受験を考えた」と「入学したが極めて積極的になれなかった」が大きく減少しており、不本意入学が減少する傾向が目立っています。

・日本大学に入学する決心をした理由



・入学直後の意識

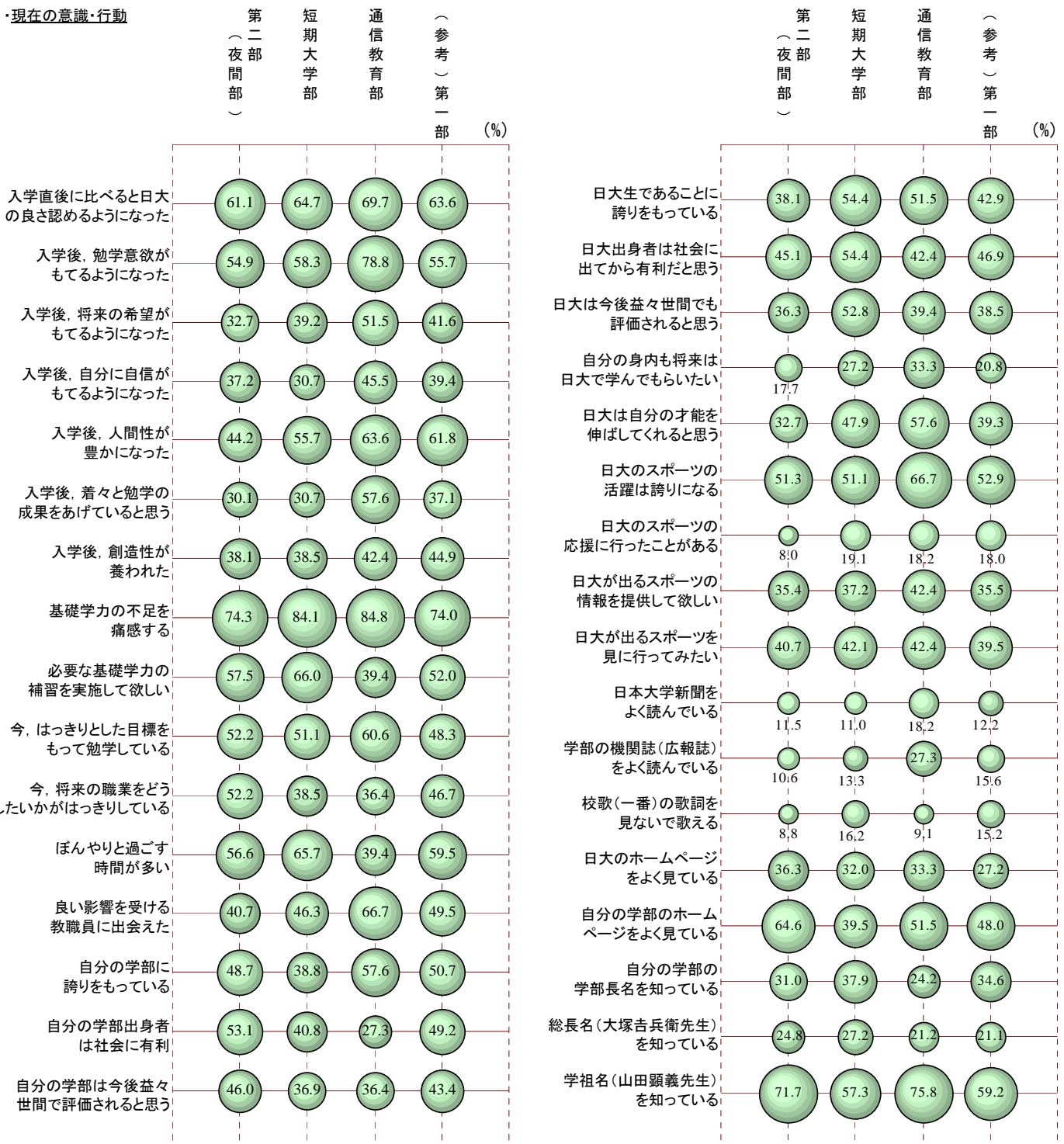


14.現在の意識・行動

「基礎学力の不足を痛感」している学生の比率が高く、短期大学部では補習要望が強い。
「学祖名」を知っている学生の比率が急上昇。「学部のHP」の閲覧率も増加。

学生の現在の意識について見ると、第二部（夜間部）・短期大学部・通信教育部とも「基礎学力の不足を痛感する」が80%前後で最も高い点が目立っており、短期大学部では「補習実施」の希望が66.0%と高く、3年前と同傾向となっています。通信教育部では「入学後、勉強意欲がもてるようになった」学生が78.8%と高くなっています。3グループとも「学祖名を知っている」は平成18年度から3年毎に10ポイント以上増加し、第二部（夜間部）と通信教育部では平成24年度は70%を超えています。また、「自分の学部のホームページをよく見ている」学生も直近の3年間で10ポイント以上増加しています。

現在の意識・行動



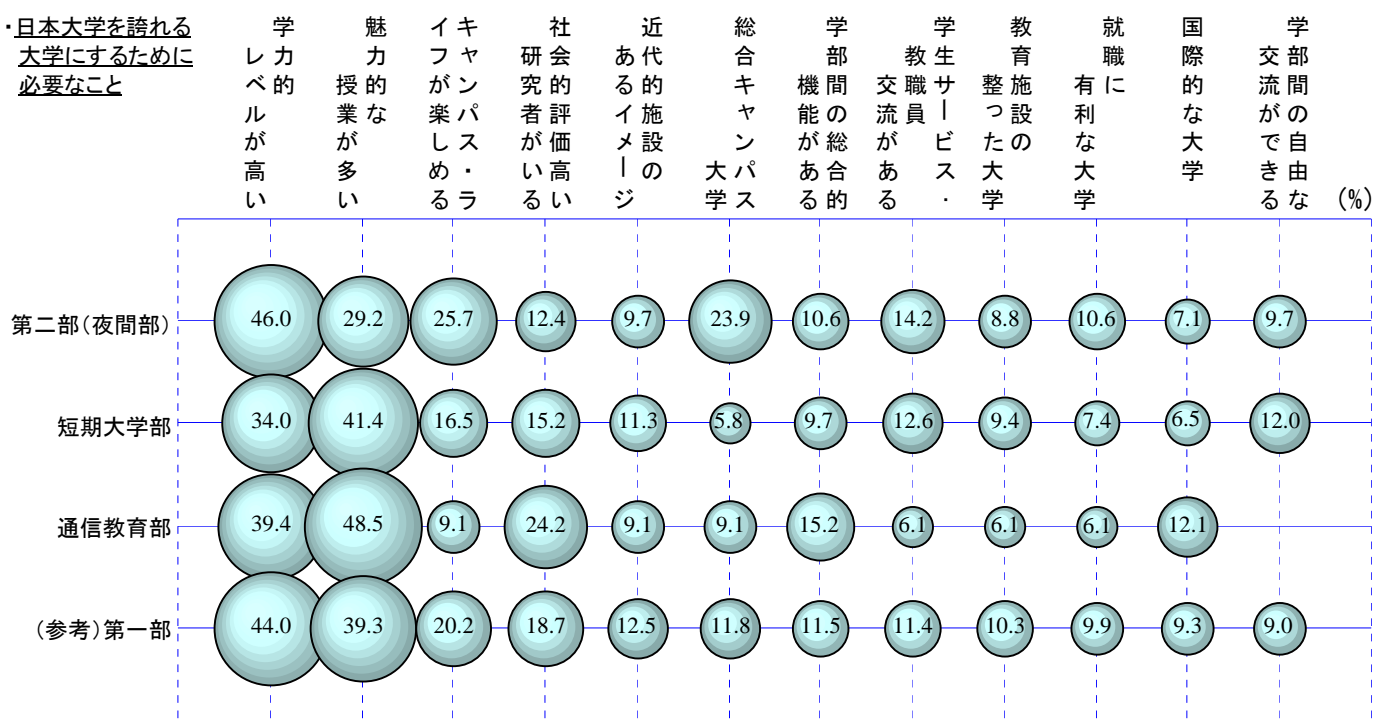
15. 日本大学を魅力ある誇れる大学にするために重要なこと

本学を魅力ある誇れる大学にするためには「学力的レベルが高い」と「魅力的な授業が多いこと」が重要。第二部（夜間部）・短期大学部・通信教育部も第一部と一致。

本大学を魅力ある大学にするために特に重要なことについて学生の回答を見ると、第二部（夜間部）は「学力的レベルが高い」が46.0%でトップ、短期大学部・通信教育部は「魅力的な授業が多い」が40%台でトップとなっています。さらに第二部（夜間部）では、「キャンパス・ライフが楽しめる」、通信教育部では「社会的評価の高い研究者がいる」も25%前後と相対的に高くなっています。

第一部と比較すると、第二部（夜間部）で「総合キャンパス大学」の比率が高い点が目立っています。

・日本大学を誇れる大学にするために必要なこと



16.将来の不安と進路に関して得たい情報・知識

将来の不安のトップは、第二部(夜間部)「就職できるか」、短期大学部「自分の能力」、通信教育部「収入」。得たい情報・知識のトップは「自分の職業適性」。

学生の将来の不安を見ると、第二部(夜間部)では「就職できるか」が40.7%、短期大学部では第一部同様「自分の能力でやれるか」が42.4%、通信教育部は「収入がきちんと得られるか」が30.3%でそれぞれ最も高くなっています。

進路について得たい情報・知識について見ると、第二部(夜間部)・短期大学部・通信教育部とも「自分の職業適性」がトップとなっています。続いて、第二部(夜間部)では「就職活動のやり方」、短期大学部では「社会人としての常識」、通信教育部では「公務員資格試験の対策」がそれぞれ2番目と差異が見られます。さらに、第二部(夜間部)では「社会人としての常識」「資格試験の対策」「各職業に要求される能力等」が20%を超え、「就職」に対する不安の強さがうかがえます。

